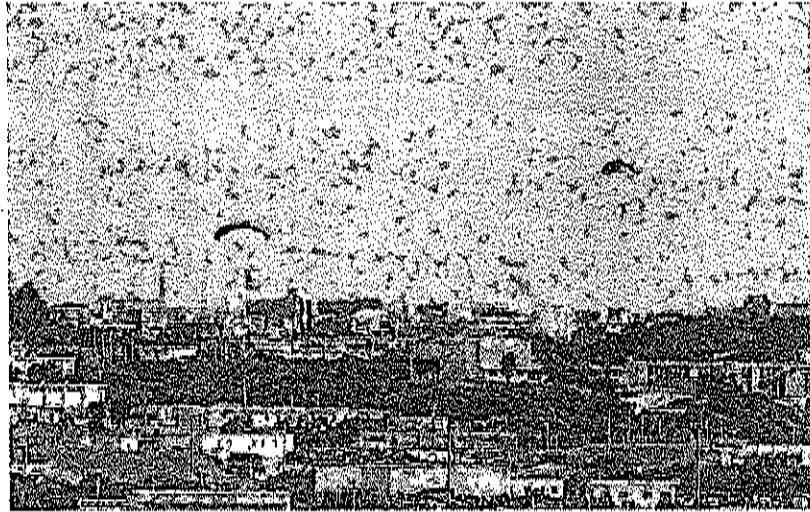


米軍降下訓練を強行

嘉手納基地 デニー知事厳しく批判



パラシュート降下訓練で嘉手納基地に降り立つ米兵=14日、沖縄県嘉手納町

米空軍は14日、米軍

嘉手納基地（沖縄県嘉手納町）で昨年12月以来4カ月連続となるパラシュート降下訓練を強行しました。午後3時半から午後4時16分にかけて、軍用機から飛び降りた米兵24人が、4回に分け次々基地に降下しました。

この訓練は1999年以降、基本的に伊江島補助飛行場（同県伊江村）で行われてきましたが、日米合同委員会は2007年、「例外的な場合」に限ると

して嘉手納基地を使用できるよう変更。伊江島補助飛行場の滑走路の損傷が激しく修復工事も決まっていないとの口実により昨年12月以降は毎月、嘉手納基地で実施されています。

県は、外務省、沖縄防衛局、在沖米空軍に繰り返し中止を要請。玉城デニー知事は13日の記者会見で「日本政府から米側に対し地元の不安を払拭すべくするための要請がきま

さん（79）は「彼の自尊心の念慮さえ守り切れない。しかも住民をバカにした理由で連続してやっている」と憤りた。

町に住む田仲康栄さんは、「彼の自尊心の念慮さえ守り切れないので、しかも住民をバカにした理由で連続してやっている」と憤りました。4千㍍上空からの降下は風向き次第で住民の住む地域に落下來しがねず、現に伊江島では1月、コースを外れた米兵が民間地に着陸しています。平和や住民の安全より軍事を優先していると田仲さんは強調。「伊江島を含め他の地域に移せば良い。訓練そのものの中止が必要だ」と訴えました。